

平成22年度 第2回 キャリアパス講演会&相談会

要旨集

日時：平成22年11月24日 15:00～

場所：講演会 理学部2号館9番教室

相談会 理学部2号館第1会議室

キャリアパス講演会 & 相談会

理学部 基礎化学科
理工学研究科 基礎化学コース

日時：平成 22 年 11 月 24 日 15：00～

場所：講演会 理学部 2 号館 9 番教室、相談会 理学部 2 号館第 1 会議室

【講演会】 15：00～17：00

(1) 永井 和則氏 (2002 年修士修了、中林研、理学修士)

HOYA 株式会社勤務

「“乙” のすすめ」

(2) 菅原 広氏 (1994 年修士修了、永澤研、工学博士)

オルガノ株式会社勤務

「キャリアパスと進路選択」

【懇談会】 17：00～19：00

“乙”のすすめ

永井 和則

要旨

十干(じっかん)、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の“乙”である。物事を評価する階級にも用いられ、学校の成績で言えば、甲・乙・丙は、優・良・可である。理系学生のキャリアパスに照らせば、研究職やアカデミックポジションが“甲”だろうか。

“乙”のすすめ、「平均点を取れ」「平凡で行こう」の意味ではない。この場合の“乙”は、「しゃれて気がきいていること」「味なこと」の意味である。音楽で“甲”より1段低い音で、低音の渋みがあることに由来するらしい。

“甲”を知りつつ、“乙”を狙う。これを本講演のテーマとする。もちろん、理系の学生である以上、研究職やアカデミックポジションは、憧れる進路である。しかしながら、すべての人がこれに至るわけではなく、当然であるが、すべての人にとって最良の選択ではない。

私自身は、“甲”をいづらか意識し、研究開発職で企業に採用されたが、内定後から入社までの期間に研究部門の規模縮小があり、技術開発兼生産技術職に従事している。私自身の適正と今日の生活を考えれば、結果として、良かったと思っている。なぜ良かったと思うのか、技術職の仕事内容・生活を紹介し、本講演が、皆様なりの“乙”探しのきっかけになるよう尽力する。

また、“乙”という視点で見れば、必ずしもサイエンスやテクノロジーに関連した職にこだわる必要はない。理系の学生であれば、商品開発やハイテク以外の物づくりなど、何かをつくること全般に喜びを感じられるのではないだろうか。文系職に興味があれば、理系であることを武器に、有利に職探しができるのではないか。

誰にでも適所があり、若輩の浅見ながら、長所と短所は同義とさえ思っている。“乙”をキーワードに、広く進路を検討するきっかけとなることを重ねて切望する。

最後に、この文面を読んで感想をくれた会社後輩の一言、

“乙”狙い、“甲”を知らねば、只の“丙”

返す言葉もない。

要旨

学部卒業年はバブル景気の影響で就職企業を選べる時代であったが、研究職の希望もあって進学を選択した。しかし、修士卒業年はバブル崩壊後の就職難の時代に突入していた。現在ほどの就職難ではないが、時代ギャップの大きさから状況は厳しかった。そして、急激な時代変化のためキャリアパスを十分に考える余裕もなく、現在の会社（機械系）に入社した。もしもバブル崩壊がなければ、おそらく化学系企業に就職し、現在とは全く違ったキャリアを形成していると思う。入社後は、開発業務に従事し、社会人編入学特別選抜で博士号を取得することができた。機械系企業であるが、業務上で化学の知識や考え方を活用する場面は多く、本学で得た知識・経験が非常に役立っている。キャリア形成の礎がここにあることは間違いない。

私は学生時代に自身のキャリアパスについてどれだけ考えていたのか疑問がある。少なくとも現在のキャリアについてのイメージは全く持っていなかった。但し、現在のキャリアは過去の進路選択の上に成り立っていることは事実である。

キャリアパスは個々人によって千差万別であり、進路選択は自身で決定するものである。みなさんが自身のキャリアパスと進路選択を考える上で、私の経験が少しでも参考になれば幸いである。